6355 久業世界の旅・心模様:北欧ひとり旅 198・講演会

足跡、重複掲載になるかも知れませんが、

京都外国語大学にて、過去、2回の講演機会をいただきました。 一度は、森田講堂にて。そして、留学生対象と、2度目の機会もいただきました。 その節の、2度目の案内の原案、16年間かけて地球4周、16万キロ、 30余ヶ国の秘境をひとり行脚。

危険をともなう**自分探し**の冒険を続行。現在人が忘れかけていた 地球の原風景を、心に映しとり、それを日本の伝統文化である和紙に再現。 この独特の創作活動により「夢絵作家」とよばれる。

研ぎ澄まされた心眼で自然が放つ一瞬の「**瞬き**」の遭遇に情熱を燃やすと**過分のご紹介**。 下記は、その節の案内文の一部。心模様 **6313** の出版本。

地球四周ひとり行脚 一世界の秘境をまわって一 いま あなたに伝えたい

講師:夢絵作家 久楽 迎古"氏

私のような旅をしていると、 文明の機械にふりまわされて、 幽霊のようになった人と、 何はなくとも若鮎のような精神でピチピチ生きている人と、 その違いがはっきり見えてくる。

秘められた力を全開、発揮していない人が多いのではないか。 世界に類を見ない独自の日本文化の誇りはどこにいったのか。

> 久楽 迎古 著『地球4周ひとり行脚』文芸社 2005年出版より抜粋



左上画像は、アラスカ

山はみどり 野に花 人にはこころ

秘境の大自然のなかにボツンとひとり立っていると、 人間はなんと小さい存在なのだろうかとひしひしと感じる。 自然をだいじにしようではないか。 美しいものをだいじにしようではないか。 はみどり、野に花、人にはこころ。 歩しいものをだいじにしようではないか。 山はみどり、野に花、人にはこころをだいじにすることだ。 いまこそ環境保全が関われている。

久楽 迎古"著『地球4周ひとり行脚』文芸社



字が小さいので、下記拡大。(上は、北欧ひとり旅での画像記録・後日ご紹介)

移境の大自然のなかにボツンとひとり立っていると、 人間はなんと小さい存在なのだろうかとひしひしと感じる。 自然をだいじにしようではないか。 美しいものをだいじにしようではないか。 山はみどり、野に花、人にはこころ。 美しいものを美しいと感じるこころをだいじにすることだ。 いまこそ環境保全が問われている。

> 久楽 迎古"著『地球4周ひとり行脚』文芸社 2005年出版より抜粋

また、皆さんのサポートのおかげで、**産経新聞**に、約**7年**間、 毎週月曜日、小さな記事ですが、**約350**は、掲載させていただきました。 プロではないことを、重々自覚。素人の延長線上のチャンス。

人生の旅という観点では、学びと気づき、大きな成果で、今でも、前進の活力源。

講演や個展、産経新聞「地球のかおり」等々のご感想、

年齢も幅広く、小学生からも、また、新聞社経由等々、今も手元に所持。 反省材料であり、今も、久楽**前進の活力源**になっています。